

# 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業について

# 1. 国立公園満喫プロジェクト

## 世界水準の「ナショナルパーク」を実現するために

「最大の魅力は自然そのもの」「高品質・高付加価値のインバウンド市場の創造」

訪日外国人の国立公園利用者数  
490万人(2015年・H27)→1000万人(2020年・H32)に  
(2016年546万人、2017年600万人、2018年694万人)

### ステップアッププログラムの策定

先行8公園  
阿寒摩周 十和田八幡平 日光 伊勢志摩  
大山隠岐 阿蘇くじゅう 霧島錦江湾 慶良間諸島

平成28年7月：世界水準の「ナショナルパーク」の候補として先行8公園を選定

12月：公園毎に地域協議会によりステップアッププログラム策定

先行8公園における成果を水平展開(H29.11開始)  
特に利用者数の多い国立公園(富士箱根伊豆/支笏洞爺/中部山岳)に重点

プロジェクト全体の中間評価とりまとめ(H30.7)  
ステップアッププログラム改訂(H31.2)

## 世界水準の「ナショナルパーク」に向けたブレークスルー

### 多様な宿泊サービスの提供

多様な宿泊体験の提供のため、分譲型ホテル等を認可する審査基準を作成し、R1.10から施行予定。  
日光、大山隠岐にて民間と連携し、外国人旅行者のニーズにあったキャンプ場にリニューアル予定

### ビジターセンター等公共施設の民間開放

伊勢志摩の英虞湾を望む直轄展望台に民間カフェを導入(H30.8オープン)  
阿寒摩周のビジターセンターを改修しカフェスペースを設置。情報発信と地域の交流の場となる機能を持たせ、R1.8から営業開始。

### 体験型コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制の強化

ファミトリップの成果等を踏まえ、モデルコースを含む「日本の国立公園コンテンツ集(日・英)」を作成。OTAへの掲載等を支援。対象公園を拡大して取組中。  
外国人のニーズも踏まえたガイドやコーディネーターを育成する研修プログラムを実施。地域の自走に向けた取り組みを支援。

### 景観の改善・利用環境の整備

大山隠岐にて廃屋を撤去(H29.7完了)し、カフェや物販機能を有する施設を整備(H30.5オープン)。  
阿蘇くじゅうにて眺望を阻害していた電線・電柱の移設を実施。  
各国立公園の案内板、ビジター展示等において、分かりやすく魅力的な多言語解説整備を促進。

### 利用者負担による保全の仕組みづくり

慶良間諸島で入島時の環境協力税を徴収し、国立公園の環境保全に活用中  
大山隠岐にて保全協力金付きオオサンショウウオ観察ツアーを実施

## 国内外への強力な情報発信

### 民間事業者等との連携

国立公園オフィシャルパートナー(ANA、JAL、JTB、KTCホールディングス、サントリー等75社)との連携協力により、空港や航空機、列車内等での国立公園の魅力の発信、商品造成、受入体制の整備支援を実施



### 情報サイト・SNS・海外メディア等による発信

JNTOグローバルサイト内に国立公園の一括情報サイトを設置・公開(H31.2)今年度、アクティビティ等の予約まで可能なサイトとする予定。

Instagram及びフェイスブック公式アカウントにおいて、現地レンジャーから、公園の感動を発信。  
動画配信や海外メディアへの記事掲載を実施中

### 国内外の旅行博等での発信

ツーリズムEXPOジャパンへの出展による情報発信、海外バイヤー商談会でのビジネスマッチングを支援

## 管理事務所の体制強化

国立公園管理事務所を新設するとともに、観光業等の民間企業経験者等を「利用企画官」として採用

## 2. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（概要）

（令和元年度予算 国費17億円）

### 【背景】

国直轄事業、地方公共団体・民間事業者への補助【補助率1/2】

国立公園の利用拠点では、インバウンド対応や個人旅行など需要の変化への対応が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている状況が課題となっている。

また国立公園は、圧倒的な自然環境と地域独自の文化資産が相まって形成されていることが外国人旅行者にとっても魅力的であるが、旅行者が体感できていない。

### 【事業内容】 < >内は現時点での令和元年度予算執行見込み

#### 利用拠点計画策定

地域協議会等において利用拠点計画を作成し、計画に記載された事業を各主体が同時一体的に実施。

<補助事業7箇所・36百万円（国費18百万円）>

#### -1 廃屋の撤去

跡地における新たな民間事業者の導入を前提に、支障となっている廃屋等の撤去を進める。

<直轄事業1,200百万円、補助事業4箇所・660百万円（国費330百万円）>

#### -2 インバウンド機能向上

外国人利用者が立ち寄る利用拠点施設において、Wi-Fi、多言語サイン、トイレ洋式化を実施。

<補助事業3箇所・12百万円（国費6百万円）>

#### -3 まちなみの改善

公共施設、民間店舗等に、外国人にも魅力的な地域の文化資産への興味、誘導を意識したデザインを付加するなど、地域文化が体感できるまちなみに改善。

<補助事業3箇所・42百万円（国費21百万円）>



### 【効果】

外国人旅行者の満足度向上、滞在時間の増加、リピーターの確保、観光による地方創生  
国立公園の文化的な魅力、奥深さの外国人理解の促進

# 3 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

## ～ 国立公園利用拠点の上質化の観点

### < 課題 >

厳しい財政状況、高齢化による後継者や担い手不足、専門的な知見を有する人材不足

個人旅行へのシフト、インバウンド増加、ニーズの多様化等への対応が必要。

景観や機能の向上に関する統一的な方針、面的計画がない

### < 活かすべきポテンシャル >

国立公園の利用拠点には、良好な自然環境、日本的な文化や人の営みの特徴など、旅行者を惹き付ける際立つ要素があり、余計なものを足す必要がない。

地域の個性や特色を印象づける質の高いデザインルールの設定により、新たな出店の勧奨、さらに観光客の満足度やリピート率の向上が期待できる。

## 国立公園利用拠点の上質化の観点

### 観点1：利用拠点における景観デザイン等に関する面的計画を作成・共有

- ・ 地域の関係者が自らの地域の魅力を認識し、方向性を共有
- ・ 統一的なデザインや、インバウンド等に対応した機能等を意識



行政と地域の民間事業者等が一体となって、景観デザインの統一等に関する面的計画を作成し、将来像を共有（山口県長門市・長門湯本温泉観光まちづくり計画）

### 観点2：実効性を備えた地域の将来像を描く

- ・ 行政と地域の民間事業者等が一体となって利用拠点の面的計画を作成し、将来像を共有
- ・ コーディネートのノウハウや経営的知見等を有する専門家の支援を得てとりまとめ



自立的な体制による検討

### 観点3：新たな民間投資や若い世代を呼び込む

- ・ 公的資金に頼らず民間資金の活用や新規事業者の参入を含む取組を推進
- ・ インバウンド増加を契機に、自ら稼ぐ、持続可能な地域経営の取組を推進



若手事業者による十和田八幡平国立公園内のマルシェ  
(写真提供：青森県)

# 4 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

～ 利用拠点計画に基づく事業実施

利用拠点計画策定

- ・ 経営・事業運営、地域マネジメント、コーディネート能力を有する人材を策定リーダーとして利用拠点計画を策定

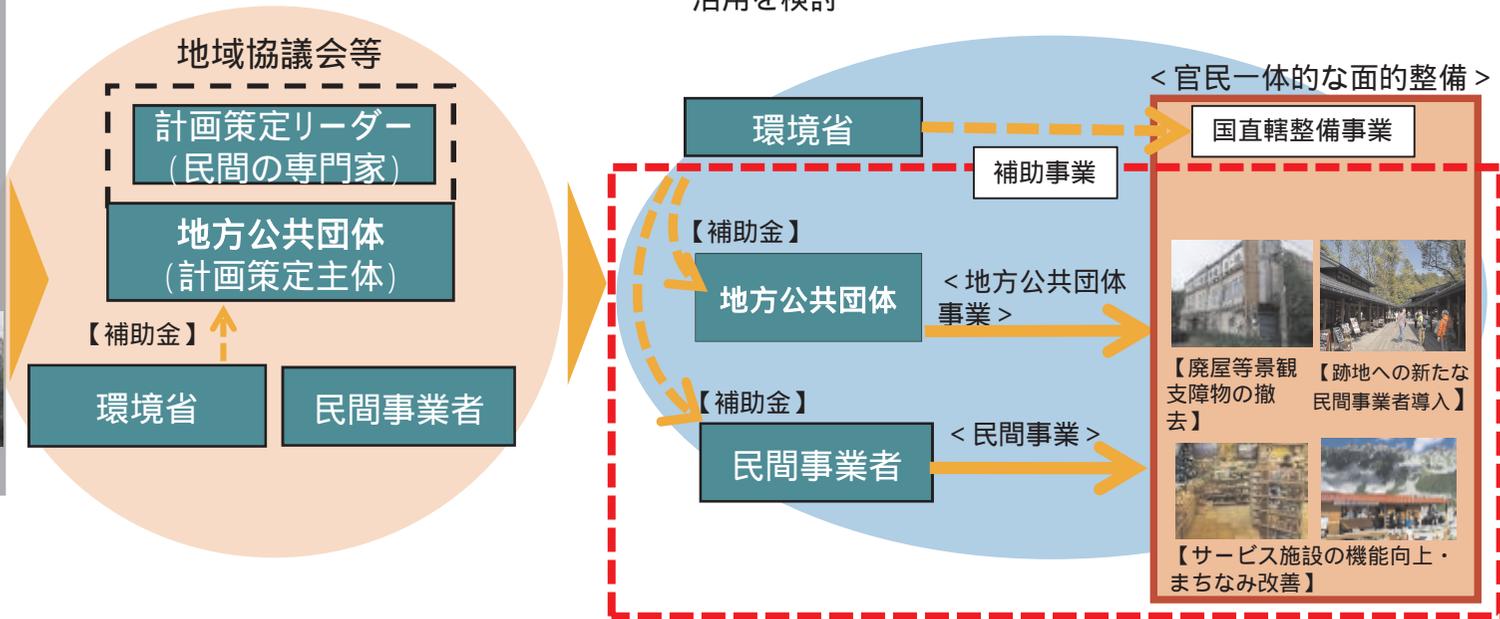
環境大臣提出

利用拠点上質化整備事業実施

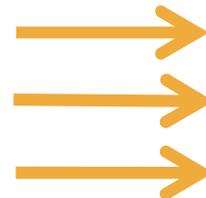
- ・ 利用拠点計画に記載された事業を各主体が同時一体的に実施
- ・ 廃屋の撤去は、跡地における民間活用を検討

< 現状 >

雑然とした風景、目立つ廃屋、団体旅行向けの旧式の土産物店等



( 既存の整備費・交付金 )



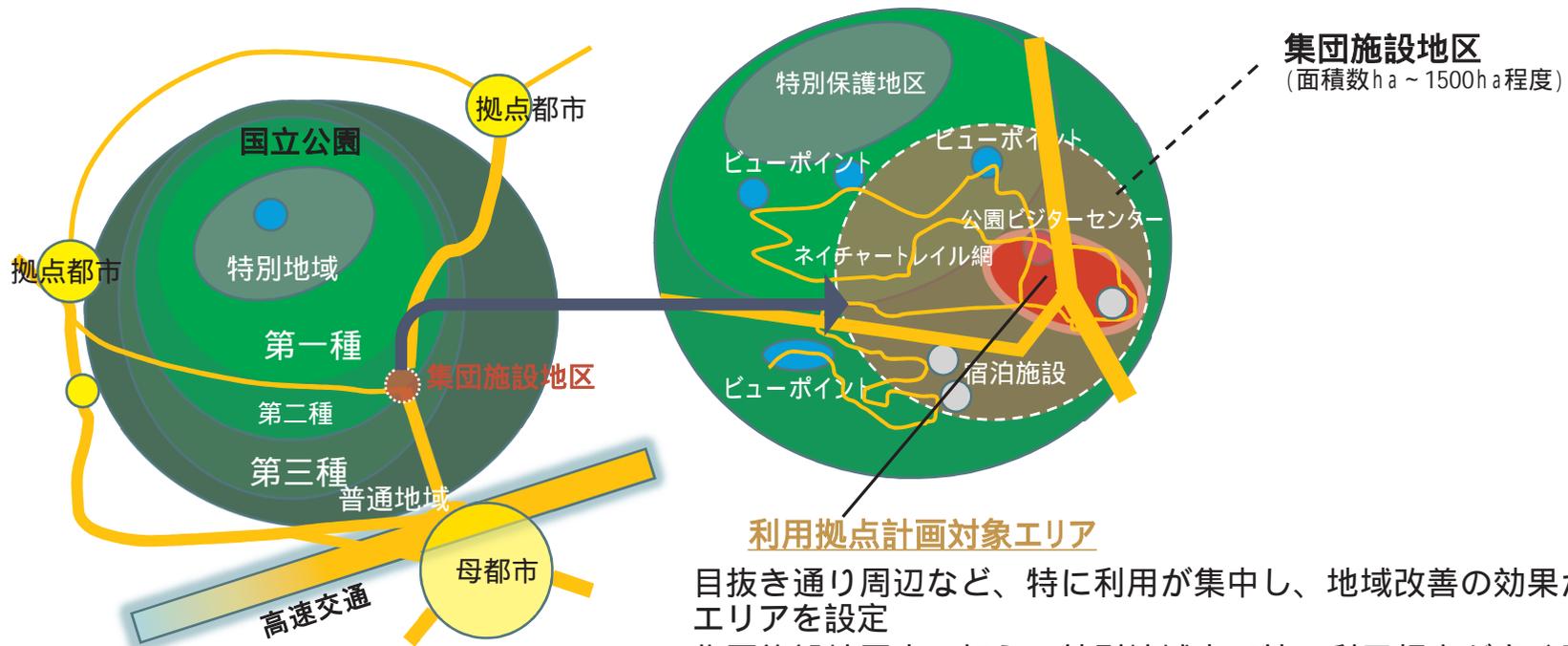
国直轄整備事業  
地方公共団体事業  
民間事業

各主体が予算の範囲内で各々の計画等に基づいて点的な整備を実施

# 5 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

## ～ 利用拠点計画の対象エリアの考え方

### 【利用拠点計画の対象エリアのイメージ】



### 利用拠点計画対象エリア

目抜き通り周辺など、特に利用が集中し、地域改善の効果が高い一団のエリアを設定

集団施設地区内に加え、特別地域内で特に利用頻度が高く重点的に上質化を図るエリアを含む



# 6 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

## ～ 対象事業等

### 【対象事業】

#### 補助事業

##### イ) 国立公園利用拠点計画策定支援事業

交付対象：地方公共団体<sup>1</sup>

対象事業：利用拠点計画作成のための調査検討<sup>2</sup>の費用

補助率：1 / 2

##### ロ) 国立公園利用拠点上質化整備事業

交付対象：地方公共団体、民間事業者等（NPO法人、観光協会等含む）

対象事業：・ 廃屋の撤去<sup>3</sup>

・ インバウンド機能向上に資するWi-Fi環境整備、多言語サインの整備、トイレの洋式化

・ 地域の文化的な魅力を発信するための外構修景（門、壁、植栽、街灯等の整備）、建築外観修景、屋外設備修景 等

補助率：1 / 2

#### イ) 【計画】

国費 1 / 2
地方公共団体 1 / 2

#### ロ) 【上質化整備】

国費 1 / 2
地方公共団体 民間事業者 1 / 2

- 1：計画策定主体は原則として市町村としますが、環境省、都道府県の事業が含まれる場合、連名で計画を策定。
- 2：地域の関係者による協議会等を設けて実施することが望ましい。
- 3：拠点計画において撤去後跡地がエリアの活性化のための民間導入など計画的な利用に供されるものに限る。

# 7. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業の事例

## 十和田八幡平国立公園 休屋地区（青森県十和田市）

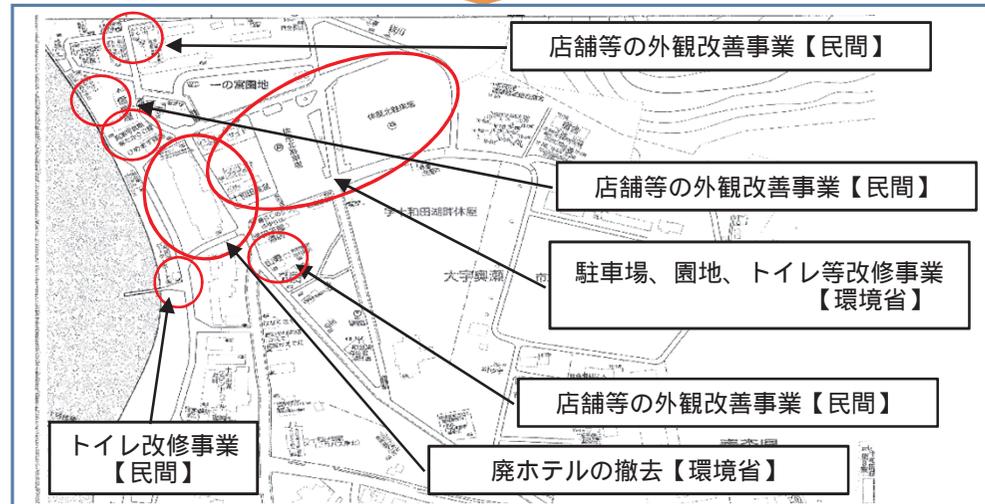
事業廃止したホテル等が目立つ集団施設地区の再生に向け、環境省、十和田市、地域の民間事業者など関係者が一体となって面的な将来像を協議しながら、事業を実施。



### < 先行取組 >



平成30年3月に遊覧船乗り場前の広場を環境省が改修済(古いアスファルト敷を、十和田湖の見晴らしが楽しめる明るい広場に改修)



< 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業 利用拠点計画 添付図 >

## 8 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業 令和元年度事業一覧（案）

公園名	自治体名	事業名	実施主体
<b>&lt; 廃屋の撤去 &gt;</b>			
阿寒摩周国立公園	北海道弟子屈町	旧華の湯ホテル撤去	環境省
上信越高原国立公園	長野県山ノ内町	志賀高原エリア内の廃屋撤去(調整中)	(一財)和合会
三陸復興国立公園	岩手県普代村	国民宿舎くろさき荘別館撤去	普代村
三陸復興国立公園	宮城県気仙沼市	国民宿舎からくわ荘撤去	気仙沼市
十和田八幡平国立公園	秋田県小坂町	旧和井内売店撤去(小規模)	小坂町
<b>&lt; インバウンド機能強化 &gt;</b>			
上信越高原国立公園	長野県山ノ内町	公衆無線LAN環境整備	志賀高原観光協会
上信越高原国立公園	長野県山ノ内町	志賀高原多言語案内サイン整備(調整中)	志賀高原国立公園整備委員会
知床国立公園	北海道羅臼町	多言語サイン整備	羅臼町
<b>&lt; まちなみの改善 &gt;</b>			
阿寒摩周国立公園	北海道釧路市	遊覧船乗り場外観修景	阿寒観光汽船(株)
十和田八幡平国立公園	青森県十和田市	飲食・ゲストハウスyamaju外壁改修ほか	風景屋ELTASほか
雲仙天草国立公園	長崎県雲仙市	休憩所売店等上質化	雲仙市
<b>&lt; 利用拠点計画策定 &gt;</b>			
長野県山ノ内町、鳥取県鳥取市、鳥取県大山町、島根県出雲市、高知県土佐清水市、長崎県五島市、熊本県阿蘇市			

## 9 . 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業 令和元年度廃屋撤去事業の概要

	件名(場所)	廃屋撤去概要	跡地活用計画と今後の進め方(案)	現地調査時の有識者指摘ポイント(補助事業)
	事業主体			
直轄事業	阿寒摩周国立公園 川湯温泉地区 (北海道川上郡弟子屈町)	旧華の湯ホテル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>跡地については、地元の行政等が中心となり、民間事業者によるカフェ、ショップ等での活用を検討中。</li> <li>さらなる民間事業者誘致のため、隣接する周辺の廃屋についても対応を検討中。</li> </ul>	—
	環境省			
補助事業	上信越高原国立公園 志賀高原利用拠点上質化事業 (長野県山ノ内町)	(実施対象調整中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食、日帰り入浴、アクティビティ利用拠点等の新たな民間導入を検討中。</li> <li>志賀高原環境整備検討委員会において、志賀高原の全体ビジョン及び各地区整備構想案を作成しており、今後事業の具体化に向け調整。</li> <li>4地区の廃屋について、権利関係整理や緊急性等から、R1より順次、撤去と跡地事業者調整を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園やユネスコエコパークのステータスを意識している地元の姿勢を評価。</li> <li>利用者動向と既存施設の状況から、地区ごとに不足している機能を補うよう検討しているのはよい。</li> <li>アクティビティは高級志向だけでなくファミリー層含め幅広く検討。</li> </ul>
	(一財)和合会 地域の土地の所有、管理団体			
	三陸復興国立公園 黒崎園地エリア上質化計画 (岩手県下閉伊郡普代村)	国民宿舎くろさき荘 旧別館 ・昭和45年建設 	<ul style="list-style-type: none"> <li>眺望デッキの設置とカフェ、ショップ等の民間導入を検討中。</li> <li>地域関係者の協議会を設置し具体の検討に着手。</li> <li>R1年度廃屋撤去、民間サウンディング含めた跡地活用検討</li> <li>R2年度民間公募</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みちのく潮風トレイルとの連携を意識。</li> <li>来訪者が国立公園に来たことが分かるような工夫、足をとめたくなる雰囲気づくり(関連施設外観の改修など)も必要。</li> </ul>
	普代村			
	三陸復興国立公園 唐桑御崎地区トレッキング拠点化計画 (宮城県気仙沼市)	国民宿舎からくわ荘 ・昭和43年建設 	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレッキング、アウトドア利用者向け休憩・飲食施設等の民間導入を検討中。</li> <li>唐桑観光活性化委員会において、今後具体の活用内容を検討。</li> <li>R1～2に廃屋撤去、跡地活用検討</li> <li>R3年度民間公募</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの場としての機能もあわせ持つことが有効。</li> <li>隣接する野営場と一体的な民間導入検討。</li> <li>利用者層にあわせた物販機能の強化。</li> </ul>
	気仙沼市			